

# 「美しい分煙社会」の作り方

## 第3回 追い出された喫煙者はどこへ行った？

須田慎一郎  
(ジャーナリスト)



本誌に原稿の音が聞いているのか (松沢成文・前神奈川県知事と須田慎一郎・現知事)

2回にわたり紹介してきた「神奈川県受動喫煙防止条例の経済効果は3年間で237億円の損失」とする富士経済と三菱UFJリサーチ&コンサルティングの共同調査の中には、たばこ販売そのものは影響を受けなかったという衝撃的な結果も含まれていた。つまり、県民の健康増進を目的としたはずの条例にもかかわらず、禁煙した者がほとんどいなくなったという皮肉な結果なのだ。

しかし、居酒屋をはじめ吸える場所は激減した。喫煙者はどこに行ったのか？どこで吸っているのだろうか？今回は、これまで注目されてこなかった喫煙者たちの本音と「喫煙生活」にスポットを当ててみる。

上禁煙を打ち出している東京都内のターミナル駅でも、似たような光景がある。もちろん、ポイ捨ては喫煙者の重大な問題だが、喫煙者が減らない現状で吸える場所だけを限定するというのは、「分煙」という名の「喫煙者排除」であり、弊害を生む原因だ。駐輪場も作らずに駅前の自転車を強制撤去する怠慢行政にも通じる問題がある。

月には全国が94・9%、神奈川県が96・6%と、全国の動向と比較してほぼ変わらないどころか、むしろわずかながら神奈川県の方が減少幅は小さい。その後の推移を見ても、神奈川に突出した数字はない。

この結果からは、条例によって禁煙したり、喫煙量が減ったりした者は多くなかったことがわかる。では、彼らはどこで吸っているのだろうか。統計的に示すデータは今のところ見当たらないのだが、本誌は横浜駅前などで喫煙者に直接聞いてみた。



新システム導入に1600万円かかった「珈琲ばあ〜」の店内

「喫煙店はもちろん、居酒屋でもたばこを吸おうとする喫煙者に案内され、せっかくながら上がっていた話も途切れてシラけちゃう。自然と店から足が遠のきますよね。昔は毎日のように飲んでいただけ、今は月1回がいいところかな。普段は家に帰り、子供もいるのでベランダでホタル族になっていきますよ。もちろん不景気で懐が寂しいこともあるけど、たばこが吸えないと

いか。社会の敵、という極端な見方は多くはないにしても、「ニコチン依存症」という偏見も根強い。本来、たばこは楽しみやリラクゼーションを求める嗜好品であり、別の人にとっての酒やスイーツ、香水などと何ら変わるものではない。

そこに偏見があるから、「喫煙者に住みにくい街づくり」が正義のように勘違いされてしまう。

最初から、非喫煙者への迷惑を防ぎつつ、喫煙者にも便利で快適な街づくり、という発想があったなら、神奈川のような問題は起きていないのではないかと。今回の取材で、分煙のあ

思うと飲みに行く気がなくなりましただね(40代男性)

「県境の川崎などで飲み会をやろうとすると、たばこを吸いたい連中が「県内は条例があるから嫌。隣駅の蒲田(東区)でやろうよ」と言い出し、県外に避難しています(50代男性)

喫煙者が外食を控え、条例の及ばない県外に逃げれば県経済にマイナスなのは当然だ。富士経済の調査では、居酒屋は「多くが1割、最大3割の売上減少」という結果が出ている。

規制推進派からは「たばこをやめるか、我慢すればいい」「店側の非喫煙者を呼び込む努力が足りない」とも一服を楽しむ場所になっ

り方を考えるヒントに巡りあった。京浜急行南太田駅前にある喫煙店「珈琲ばあ〜」(東区)南太田店である。同店では、空調を座席の下から上に流すことで、煙が天井の排気口に流れる最新システムを導入している。

仕切り板はないが、確かに店内はたばこの臭いがほとんどしない。喫煙者と同居していた非喫煙者に聞いても、「私は煙が気になるほうですが、ここなら目の前で吸われても平気」と評判は上々のようだ。

ただし、これにもコストの課題がつきまとう。八尾淳也店長の話。

「喫煙者vs非喫煙者」という対立構図ではなく、お互いにある程度納得して共生できる環境を提供したかった。ただ、まだこのシステムは県に分煙設備と認められたわけではなく、費用は1000万円ほどかかった。それでも普及すればコ

### 「喫煙者は悪者」なのか

とも一服を楽しむ場所になっ

ていないし、中に入れない喫煙者が吸い殻を路上にポイ捨てし、夜になれば周りは吸い殻で溢れかえっている。しかも現在は節電対策で夕方6時以降は照明がつけられ、利用できない。これは横浜に限らず、路

ストも下がらるだろうし、誰かがやらなければ前に進まない。そのきっかけになればと思っ

ただでさえ不況に喘ぐ飲食業界にとって、1000万円の投資は簡単ではない。ただ、八尾氏がいう「対立ではなく共生」という考え方で進めば、これ以外にもいくらかでも解決策は見えてくるだろう。

前章で紹介した喫煙者の声にあったように、「吸えない街づくり」で排除された者たちは、娯楽やコミュニケーションの場を失った。早く家に帰るのは、それはそれで良いのだが、子供のいる場所で喫煙する機会が増えるなら、居酒屋の受動喫煙以上に問題かもしれない。そもそもプライベートの過ごし方は、本人の自由であるべきだ。

問題すべてを喫煙者のモラル、マナーに押し付けるのではなく、「共生の分煙社会」を本気で考えるべきではないか。神奈川の隣街は、それを教えている。